

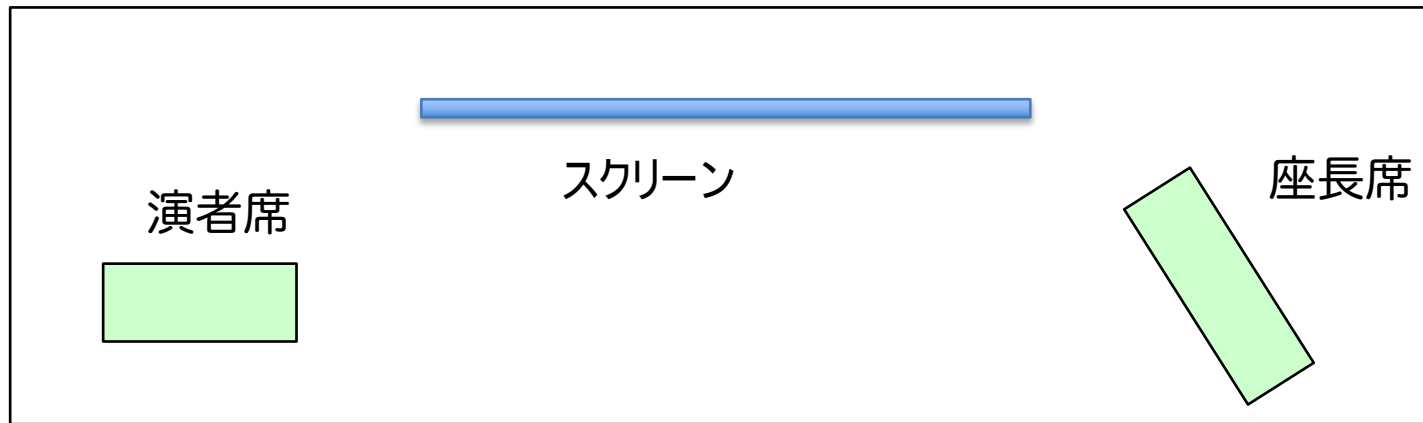
医療安全・感染対策研修会

エボラ出血熱・MERS 疑似患者対応シミュレーション

北九州市立八幡病院 感染制御室
NPO-KRICT 副理事長

伊藤重彦

事前配布資料



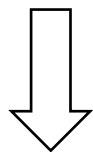
自宅・職場
からの電話

シミュレーション訓練

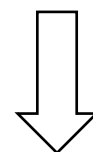


待機
場所

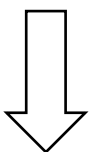
「厚生労働省通知に基づく疑似患者」と判断



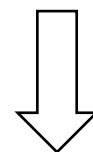
電話にて相談



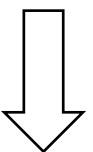
受付にて相談



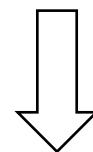
保健所に連絡・保健所が対応



連絡方法の確保

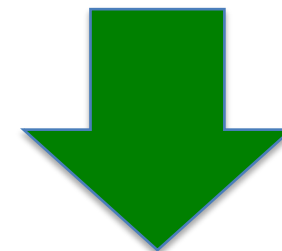


施設の感染対策



「渡航歴＋発熱症状」がある患者の受診希望

※とりあえず心配なら・・・

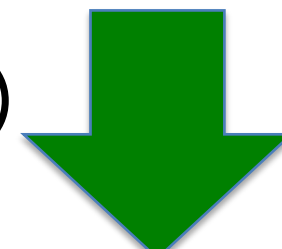


「最近〇〇週間以内の流行国※滞在歴」の確認

※エボラ出血熱→3週間（21日）以内

※MERS →2週間（14日）以内

※新型インフルエンザ→潜伏期間（数日）



「厚生労働省通知に基づく疑似患者」の確認

シミュレーション１（電話相談）

診療所に、流行国帰りのかかりつけ患者から、発熱に対する受診希望の連絡が来た。

- ・ 電話を受けた職員は、どう対応しますか？
- ・ 先生は、どう指示を出しますか？
- ・ エボラ出血熱ならどうしますか？
- ・ MERSならどうしますか？

シミュレーション2（直接来院）

診療所に流行国帰りのかかりつけ患者が発熱を主訴に突然来院してきた

- ・ 受付職員は、どう対応しますか？
- ・ 看護師は、どう対応しますか？
- ・ 先生は、どう対応しますか？

エボラ出血熱

- ・ 疑似患者は、保健所職員がくるまで動いてはいけない
- ・ 移動は、すべて保健所職員が付き添って行う

MERS

- ・ 疑似患者は、保健所の対応が決まるまでは動いてはいけない
- ・ 二次医療機関へ移動するのか（搬送するのか）
保健所の指示に従う

(電話相談 1)

ギニアに一昨日まで滞在し帰国した。成田検疫所では発熱ないため北九州まで帰ってきた。健康監視中に、昨日から38℃以上の発熱があり、関節痛がある。受診していいですか。

「最近1ヶ月以内に流行国に滞在し、38℃以上の発熱がある」ことが確認できた⇒疑似患者と判断

→ どう回答しますか

- ・自宅からの連絡であった。

→ どう回答しますか

- ・職場からの連絡であった。

→ どう回答しますか

(電話相談 2)

ギニアに一昨日まで滞在し帰国した。成田検疫所では発熱ないため北九州まで帰ってきた。健康監視中に、昨日から37.4℃の微熱があり、関節痛がある。
受診していいですか。

「最近1ヶ月以内に流行国に滞在し、38℃以上の発熱はない」⇒疑似患者でない（国の定義には入らない）

→ どう回答しますか

- ・自宅からの連絡であった。

→ どう回答しますか

- ・職場からの連絡であった。

→ どう回答しますか

疑似患者の直接来院（エボラ出血熱）

受付ではじめて判明する！

→疑似患者であるかどうかの確認を行う

- ・ 誰が、隔離エリア（待機場所）へ誘導する
- ・ だれがPPEを着用し、いつ登場するのか
- ・ 体温測定は行うのか、手順はどうする
- ・ 熱発が確認できたらどうする
- ・ 使用した器材はどうする
- ・ 使用したPPEはどうする

エボラ出血熱・MERS疑似患者対応 ～とくに、対応手順とPPEの選択～

© SHIGEHICO ITO

研修終了後配布資料

参考資料

◎エボラ出血熱に対応するPPE 着脱の実際と防護の考え方

◎一般医療機関（病院・診療所等）における
エボラ出血熱疑似患者に対するPPE 選択の考え方
[PDF資料ダウンロード]

市立八幡病院（<http://www.yahatahp.jp>）

⇒感染制御室（ICT）

⇒対策マニュアルコーナーよりPDFダウンロード

検索：[エボラ] × [PPE] 、 [エボラ] × [疑似患者]

感染経路と個人防護具（PPE）の考え方

感染症	接触感染	飛沫感染	空気感染	PPEポイント
エボラ出血熱	★★★★★ (汚染～?)	★ (咳症状～?)	?	露出皮膚・粘膜 衣服の曝露防止
中東呼吸器 症候群 (MERS)	★★ (汚染～数日)	★★★ (咳症状～?)	?	鼻腔・口腔気道 粘膜等曝露防止
新型 インフルエンザ	★★ (汚染～48h)	★★★ (咳症状～?)	?	

エボラ出血熱疑似患者が、診療所等一般医療機関を受診したとき、外来に準備しておくべき物品

環境除菌剤と 清拭用ワイプ	次亜塩素酸ナトリウム（ハイター [®] など）
	ペルオキソー硫酸水素カリウム（酸化剤）配合剤（ルビスタ [®] ）
手指消毒薬	アルコール含有手指消毒薬
PPE	手袋、長袖ガウン（半袖エプロンは不可）
	シューカバー、（タイベックスーツ）
	N95マスク、サージカルマスク、廃棄できるゴーグル
体温測定	廃棄できる体温計
廃物容器	感染性廃棄物（PPEや汚染ワイプなど）が入る、大きめで頑丈なビニール袋

エボラ出血熱：接触リスクとPPE選択の考え方

- ・発熱のみの症状を呈するエボラ出血熱患者からの接触感染リスクは低いとの報告があるが、一方で高い毒性（感染した場合の死亡率約40%）を考えると、適切なPPE着用により確実な接触感染対策を行うことが重要である。
- ・エボラ出血熱の感染者や疑似患者が、一般医療機関に突然来院してきた場合の感染対策、とくに外来に準備しておくべき医療材料、接触リスクにあわせた適切な个人防护具（PPE）着用の考え方について述べる。

接触リスク～ウイルス曝露のリスク

●高リスク

保健所や一種感染症指定医療機関

疑似患者と直接接触、汚染環境からウイルスの曝露受ける可能性が`高い状況。吐物に触れる可能性の有無で着用するPPEが異なるため、リスクを（A）と（B）に分ける

（A）発熱のみの患者との接触、汚染環境との接触

（B）嘔吐を伴う患者との接触、患者の嘔吐物の処理

●中リスク

消防機関や一部の医療機関

発熱症状のみの患者に対して、原則、1m 以上離れて対応するが、接触する不測の事態が起こる可能性が否定できない状況。

●低リスク

患者、汚染セリアと確実に数m以上離れている

疑似患者と接触しないことが明らかな状況。

高リスクの接触におけるPPE選択の考え方

○高リスク（A）★★★

- ・ [発熱のみの症状患者] と明らかな接触
- ・ （B）よりウイルス曝露のリスクは低い
- ・ 接触感染対策を行う（2重の手袋、サージカルマスク）

○高リスク（B）★★★★★

- ・ [発熱と嘔吐を伴う患者] と明らかな接触
- ・ 嘔吐物の処理を行う可能性がある
- ・ ウイルス曝露の可能性が最も高い
- ・ 接触感染対策＋飛沫感染対策を行う（N95マスク）
- ・ 嘔吐物による床汚染の可能性（シューカバー）
- ・ 私服の汚染を避ける（タイベックスーツ）

中～低リスクの接触におけるPPE選択の考え方

○中リスク ★★

- ・発熱のみの患者に、原則1m以上離れて対応する
- ・検温・問診で手袋を介して接触する可能性がある
- ・ウイルス飛沫に曝露する危険はない
- ・接触感染対策を行う
- ・手袋は、2重でも一重でもよい。
- ・マスクは、サージカルマスクを標準とする。

○低リスク ★

- ・接触しないことが明らか（特別なPPEは不要）
- ・接触感染対策を行う場合は、中リスクに準じる

診療所で起こりうるリスクとして検討しておく

接触レベルと着用するPPE（一般医療機関）

エボラ出血熱感染者との接触レベルと着用するPPEの種類	接触レベル			
	高い		中間	低い
	発熱	嘔吐	発熱	発熱
手袋（2重）	○	○	△	×
手袋（一重）	×	×	○	○
長袖ガウン	○	○	○	○
タイベックスーツ	×	△	×	×
フェースシールド	×	○	×	×
ゴーグル	○	○	△	×
サージカルマスク	○	△	○	○
N95マスク	△	○	△	×
シューカバー（長靴）	×	○	×	×

- ・ 発熱のみの症状と嘔吐を伴う場合で、着用する个人防护具（PPE）は異なる
- ・ ○は必ず着すべきPPE、△は着用が望ましいPPE、×は着用が不要なPPE

MERS疑似患者に対する感染対策とPPE着用の考え方

PPE	感染リスク			
	超高	高	中	低
手袋	○	○	○	○
ガウン	○	○	○	△
エプロン	×	×	○	○
サージカルマスク	×	○	○	○
N95以上	○	○	○	△
ゴーグル フェイスシールド	○	○	△	△

疑似患者が直接来院した場合 ⇒ 病院・診療所
受付において、出来るだけ早く発見・把握する

- ・ 医療機関入口や受付付近に、流行国滞在歴の申告をお願いするポスターを掲示する。
- ・ （流行している時期は、）発熱を主訴に受診する患者に対して、「最近1ヶ月以内の流行国滞在歴」を受付で積極的に確認する。

（ポスター掲示例） 「最近1ヶ月以内に流行国に滞在された方は、受付に申し出て下さい。」

中東呼吸器症候群(MERS)感染症への注意喚起

※中東地域および韓国から帰国後2週間以内で発熱や咳など
で来院された方は、必ず受付に申し出て下さい。

（中東地域とは、アラブ首長国連邦、イエメン、イラン、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、ヨルダン、レバノンを指します。）

ご協力頂きますよう、お願い申し上げます。

北九州市立八幡病院 院長

(電話相談1) かかりつけ患者からの受診希望

「最近1ヶ月以内に流行国に滞在し、38℃以上の発熱がある」ことが確認できた場合⇒疑似患者である

★ 保健所が確実に対応する

- ・保健所職員が到着するまで 電話を掛けてきた場所から動かないように指示する。
- ・自宅からの連絡では、自宅で待機し自らの判断で外出(移動)しないよう指示する。
- ・職場や人ごみの多い場所からの連絡では、周囲のものに出来るだけ触れずに、今いる場所の近くで人ごみの少ない場所で待機するよう指示する

(電話相談2) かかりつけ患者からの受診希望

「最近1ヶ月以内に流行国に滞在歴し、37℃~38℃未満の微熱か` がある、熱はないか` 嘔気・嘔吐など` の症状か` がある」ことが` 確認で` きた場合⇒ 疑似患者ではない

★保健所に相談し、対応を任せる

・その場に待機し、(その場から移動せず` に)保健所からの指示を待つよう伝える ⇒連絡先の確認をしておく

(患者の連絡先の確認)

- ・ 患者に対して、保健所保健予防課(522-8711)に直接連絡するよう指示する。
 - ・ 同時に、電話を切るまえに、患者氏名、連絡先(必ず〃 連絡がとれる番号)を確認しておく。
 - ・ 患者の同意のうえで〃、医療機関から保健所に患者の連絡先を連絡する。
- ※患者から保健所へ連絡が〃 なかった場合のセーフティーネット

疑似患者が来院したときのPPE着用のタイミング

- ・ PPEを着用していない職員（マスクは着用できる）

①患者本人へ事情を説明する

②患者から確実に1m 以上離れて、待機場所へ速やかに誘導する。

（待機場所へ移動するときの説明例）

「あなたはエボラ出血熱の流行国に1ヶ月以内に滞在していますので、少し追加で確認したいことがあります。

他の患者と接触しないため、私の指示に従って、別の場所へ移動をお願いします。」

⇒PPEを着用した職員が以後対応する

PPEを着けたどの職員がどのタイミングで登場し、どのように対応する？

- ・ 問診、検温は、待機場所に移動した後で` 行う。
- ・ PPE を着けた職員は、原則、患者から1m 以上離れた位置で` 対応する。
- ・ PPEを着けた職員は、患者に対してサージ` カルマスクの着用とアルコール手指消毒を指示・指導する。

⇒ （PPE を着用して対応することの説明例）

「感染拡大を防ぐ` ために、今から専用の防護服を着用して対応します。こ` 理解とこ` 協力をお願いします。」

検温等の処置手順

- ・待機場所に予め廃棄できる体温計を準備する。
- ・検温はて“きるた”け患者自身にお願いする。

※自宅等で“測定した体温が”明らか（38℃以上）な場合は、改めて検温を行わなくてよい。

（申告された検温結果で“疑似患者と判断してよい）

- ・検温に使用した体温計は、予め用意したビ“ニール袋に入れて廃棄する。

使用物品の廃棄

- ・感染性廃棄物として廃棄するが、他の感染性廃棄物とは区別し、確実に密閉する。

タイベックスーツに何をプラスするのか

2 類～5 類感染症

1 類～2 類感染症

手袋（一重）

手袋（二重）

ガウン・エプロン

ガウン

サージカルマスク

N95～100マスク

N95マスク

シューカバー

フェースガード

ゴーグル

ゴーグル

